

平成 29 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO法人 よんなっせ山鹿	代表者	野田征男	法人・ 事業所 の特徴	地域の中で安心して暮らし続けられるよう、地域の力をつなぎ、結び付け、地域の人とともにどれだけ重度の認知症の人でも尊厳ある暮らしを実現できるように支援を行う。可能な限り自らもてる力を発揮し、生きる力を生み出し、普通の暮らしを続けられるよう地域と事業所が連携して支援をしている。
事業所名	小規模多機能ホーム いつでんどこでん	管理者	川原秀一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	6人	0人	0人	1人	0人	4人	1人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に表示してある職員一覧に常勤・非常勤の別を記入する。 ・専門用語等のわかりにくい表現ではなく、地域の誰が見てもわかるような記入の方法で評価していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回り尚わかりやすく具体的に計画が記載されていたので見やすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉（表現、専門用語）が私たちに、まだまだ伝わらない部分がある。もっと簡単な言葉で一般の人にもわかりやすく記入してほしい。 ・言葉がわかりにくいところもあったが、職員が前向きに取り組んでいることは理解できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門用語等のわかりにくい表現ではなく、地域の誰が見てもわかるような記入の方法で評価していく。（継続事項） ・玄関に表示してある職員一覧表に常勤・非常勤の別を記入し写真も添付する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・看板の内容について、運営推進会議等で検討していく。 ・サロンや予防教室を通して、高齢者以外の住民の方とも接点を持ち、地域の誰もが立ち寄りやすい環境を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板についてはもう少し大きくできないか。 ・もう少し事業所の内容を記載できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の事業所というだけで中々地域住民は近寄りがたい部分があったが、最近は地域の方が介護世予防教室に参加していることで身近になった。 ・予防教室を通じて理解や関わりの接点が多くなっている。 ・高齢者のためだけの事業所と思われ誤解がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看板の内容については引き続き運営推進会議等で検討していく。 ・サロンや予防教室を通して、高齢者以外の住民とも接点を持ち、地域の誰もが立ち寄りやすい環境を継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・大道校区内に広報誌を配布できるか検討し、次年度中に解決をする。 ・職員からの挨拶を徹底して行う。 ・地域認知症サポートリーダーの方たちと連携して、小学校や会合 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から広報誌の定期発行（2カ月に1回）をしている。 ・現在は白石十三部のみ。校区内への配布となると部数もかなり増えるため、校区内の配布方法をどうしたらいいのかわからないので検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌をしっかり読めば事業所のことは理解できる。 ・広報誌を読んでいるとの声もきくようになった。 ・広報誌は回覧でいいのでは？→県域に配布するのは大変では？ ・サポートリーダーは何人いるの 	<ul style="list-style-type: none"> ・大道校区内に広報誌をどのようにして配布するか、今年度も検討していきたい。 ・地域認知症サポートリーダーの方たちの活動報告を行い、小学校や会合等での認知症出前講座を今年度も引き続き開催する。

	等での認知症出前講座を開催する。	・出前講座自体は事業所として行っていないが地域のサポートリーダーさんと職員と一緒に様々な会合で認知症に対する講座を実施している。	か？→名簿は出せない（個人情報のため） ・サポートリーダーの活動内容や活用方法がよくわからない。 ・地域ではサポートリーダーのことは知られていない。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・小規模多機能型居宅介護以外の事業所の活動（サロン活動や配食等）を、運営推進会議や広報誌を通じて地域に伝えていく。	・運営推進会議から出た意見を元に、地域との関わりができてきている。	・区長さんや地域の方の広報のおかげで、地域の方の利用が増えている。	・利用者の方が住み慣れた場所で暮らしていけるよう、地域と連携しながら支援していけるよう努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議にて、地域の心配事・困り事をみんなで話し合える時間を明確に設けていく。 ・管理者以外の職員が会議に参加できるよう、勤務上の配慮を行う。	・職員の顔と名前が一致しない。 ・介護予防には職員も参加している。 ・年度初めにおおまかでいいので、行事の予定をおしえてほしい。	・地域の方が利用登録につながり、支援によって地域活動に参加できるようになった。 ・心配事や困り事を気軽に相談できていると、介護予防の参加者から聞いている。	運営推進会議だけではなく、事業所外の集まりの中で心配事・困り事を相談できる事業所となるよう努める。 ・運営推進会議だけではなく地域の行事などを通じて、職員の顔や名前を覚えてもらえるよう努める。
F. 事業所の防災・災害対策	・消防訓練は早めに計画をし、自治会や近隣住民の方へのお知らせをする。 ・備蓄は今後検討していく。	・火災訓練の実施日が設備の方との連携が取れず日程が急遽決定したこともあり、周知徹底が不十分だった。 ・備蓄の件は、今回地震があったこともあり必要性は感じているが、備蓄するための場所の確保など、検討しなければならない課題も多く、今後も引き続き考えていかなければならない。	・備蓄する際は、食べやすい物や好みのものを備蓄したほうが良い。 ・水道が出なくなることも想定して、近隣にある井戸を知っておくと役立つ。 ・地区では停電時に対応できるよ、発電機を購入した。 ・熊本地震により火災以外の防災訓練を今後取り組む必要がある。 ・滋賀指定している健康福祉センターまで高齢者が避難するのが困難とのことで、事業所に避難場所として利用してもらった。 ・地域での自主防災組織に参加し、地域の消防団とも連携していきたい。	・地域の防災組織と連携し、訓練等に参加することで緊急時に対応できるように努める。 ・備蓄については引き続き検討していく。